

# 女子短大生のライフスタイルの研究Ⅱ

—学生の生活および将来に関する学生自身の展望についての第二次報告—\*

永 田 照 子  
菅 田 圭 次  
恵 玲 子

## I. は じ め に

教育問題に関してさまざまな議論がある。しかしその多くは小・中学校段階を中心としたもので、ここ数年の動向として高等学校における問題への言及がやや増加しているように思われるが、教育問題に関する論議が義務教育あるいは中等教育を対象としたものに集中しているのは当然としても、およそ高等学校卒業生の40%前後が短大あるいは4年制大学に進学する現状を考えると、高等教育に関する論議の基礎となる資料を蒐集しようとする試みがあまりにも少ないように思われる。そのことがきわめて不確実な事実の上に多くの議論が提出される理由の一つであろう。

われわれは、大学教育に関する種々の議論が相互にかみあうためには、1) 大学に入学しようとする学生がその将来にいかなる展望をもち、大学に何を期待しているか、他方、2) 大学の教師が大学教育をいかに位置づけているか、3) 大学教育に対する社会的要請がいかなるものか、に関する実態とその実態を支える基本的な要因を明らかにすることが必要であろうと考えている。

しかし、この種の調査研究において、因果関係や社会的・文化的背景の意義を明らかにするためには、長年月にわたる資料の蓄積が必要であろう。

本論文では、理論的・体系的考察はあらためて別途に試みることにして、とりあえず調査の結果に基づく基本的な資料の報告を行う。

---

\*この論文のもとになった資料の各種統計計算は学習院大学計算機センターの今井賢氏の協力による。

## II. 目 的

以上のような問題意識を背景として、当面、女子短大に入学してくる学生の将来への展望と現在の学生生活に対する態度の関係を明らかにすることを主たる目的として蓄年的な学生の意識構造の変化を捉えるための調査を試みている。この報告は前年度<sup>(1)</sup>にひきつづいて行われた調査の結果をまとめたものである。

蓄年的変化を検討することを目的として、同一対象者に対する前年度と同一の調査も含まれる。

## III. 調 査 方 法

今回の調査の方法は次のとおりである。

- (1) 調査対象者 東京工芸大学女子短期大学部に在学する学生，347名（1年生176名，2年生171名）。
- (2) 調査項目の作成 前年度（昭和59年）実施した調査の項目に短大生活への適応の状態を問う項目が加えられ，全体として次のような事項に関する項目が用意された。なお，調査項目に対する回答のしかたなど，若干前年度の調査票に修正がなされた。
  - i) 住居様式，家族構成，通学時間，出身校など
  - ii) 入学の志望動機
  - iii) アルバイト
  - iv) 課外活動
  - v) 運動と健康
  - vi) 愛校心，目標達成への努力，不安や悩みなど精神的側面
  - vii) 友人関係
  - viii) 卒業後の進路に関する期待
  - ix) 学習面や日常生活に関連する事項
  - x) 短大生活全般への適応の状態
- (3) 実施方法 各学年クラスごとに集団的に行った。調査は無記名で行われたが，前年度の調査との対応をつけ得るように整理番号がつけられた。回答は評価の対象にならないこと，またすべて一括して統計的に処理され個人の秘密が公表されることはないことが強調された。所要時間は約40分であった。
- (4) 実施期日 昭和60年7月15日－7月17日の期間

## IV. 結果と考察

調査内容は多岐にわたっているが、今回は以下の項目についての結果が報告される。また前述のごとく本報告の目的の1つが1年生と2年生の比較ということであるので、前年度の調査結果とも比較しつつ考察を進める。そのため調査対象者を右に示すように記号で表すことにした。

年 度	人数	記号
59年度 2 年生	159	59-2
59年度 1 年生	181	59-1
60年度 2 年生	171	60-2
60年度 1 年生	176	60-1

59-1と60-2は同一の調査対象者ということになる。

### 1. 住居様式・通学時間・志望理由

#### (1) 住居様式・通学時間

本学生の85%以上が自宅通学者で、通学時間は1時間30分以内の通学圏内に約70%以上が含まれている。これは1年生、2年生共に変りはない。

#### (2) 本学を志望した理由

本学への志望理由（表1）では、将来の就職を考えてが最も多く、一般に短大を選んだ理由（表2）とも一致して際立っている。次いで専門的な知識の拡大、資格取得と続く。

表 1 本学を志望した理由（3つ以内）

項 目 \ 学 年	59-2 N (%)	59-1 N (%)	60-1 N (%)
専門的な知識の拡大	66(41.5)	80(44.2)	73(41.5)
資格取得のため	34(21.4)	54(29.8)	37(21.0)
校風が好ましかった	8(5.0)	3(1.7)	11(6.3)
地理的に通学が便利	34(21.4)	56(30.9)	40(22.7)
自分の能力にあった	25(15.7)	10(5.5)	11(6.3)
是非やりたい学科だった	46(28.9)	46(25.4)	47(26.7)
教育方針に共感した	9(5.7)	2(1.1)	9(5.1)
先生や近身者にすすめられて	32(20.1)	32(17.7)	27(15.3)
友人が選んだので一緒に	1(0.6)	6(3.3)	5(2.8)
将来の就職を考えて	101(63.5)	145(80.1)	133(75.6)
設備が充実している	4(2.5)	9(5.0)	9(5.1)
受験雑誌、広告、進学相談に接して	29(18.2)	22(12.2)	19(10.8)
体裁がよいので	0(0)	0(0)	0(0)
大学ならどこでもよかった	2(1.3)	2(1.1)	4(2.3)
その他	5(3.1)	4(2.2)	5(2.8)
無回答	0(0)	3(1.7)	0(0)

表 2 短大を選んだ理由（1つ選択）

学 年 項 目	59-2 N (%)	59-1 N (%)	60-1 N (%)
教養、視野の拡大	24(15.1)	13(7.2)	19(10.8)
専門知識の習得	32(20.1)	27(14.9)	30(17.0)
期間的にちょうどよい	16(10.1)	21(11.6)	22(12.5)
就職に有利	47(29.6)	72(39.8)	73(41.5)
学生生活を満喫	3(1.9)	9(5.0)	3(1.7)
家族のすすめ	12(7.5)	5(2.8)	10(5.7)
経済的理由	5(3.1)	5(2.8)	7(4.0)
結婚を考えて	2(1.3)	1(0.6)	3(1.7)
学 歴	2(1.3)	4(2.2)	8(4.5)
その他	6(3.8)	2(1.1)	1(0.6)
無回答	10(6.3)	22(12.2)	11(6.3)

大学を志望する際、就職に重点がおかれるならば、はじめに4年制大学か短大かの選択がなされると思われる。本学同様の女子の短大を目指していた学生は全体で50%を割っていた(表3)。このことは就職問題のために希望とは異なる進路を選択している可能性が考えられる。

表 3 4年制大学と短期大学のどちらに入学したかったか

学 年 項 目	59-2 N (%)	59-1 N (%)	60-1 N (%)	全 体 N (%)
女子の4年制大学	2(1.3)	5(2.8)	5(2.8)	12(2.3)
共学の4年制大学	55(34.6)	61(33.7)	54(30.7)	170(32.9)
女子の短期大学	74(46.5)	84(46.4)	91(51.7)	249(48.3)
共学の短期大学	16(10.1)	21(11.6)	18(10.2)	55(10.7)
どちらでもよい	11(6.9)	10(5.5)	8(4.5)	29(5.6)
無回答	1(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.2)

大学に学ぼうとする学生がどのような入学の動機をもち、どのような目的をもって大学を選択するのか。それによってときには2年間の短大生活のあり方を左右する要因ともなりかねない。また場合によっては、大学の持つ特殊性や目的と効果的に結びつかないでしまうことも考えられる。そこで入学後の意識の変化について、後に検討が試みられる。

## 2. 課外活動について

課外活動のクラブに関する参加状況(図1)をみると、59年度の2年生を例外として、学内・学外とも年ごとに参加人数が増えている。

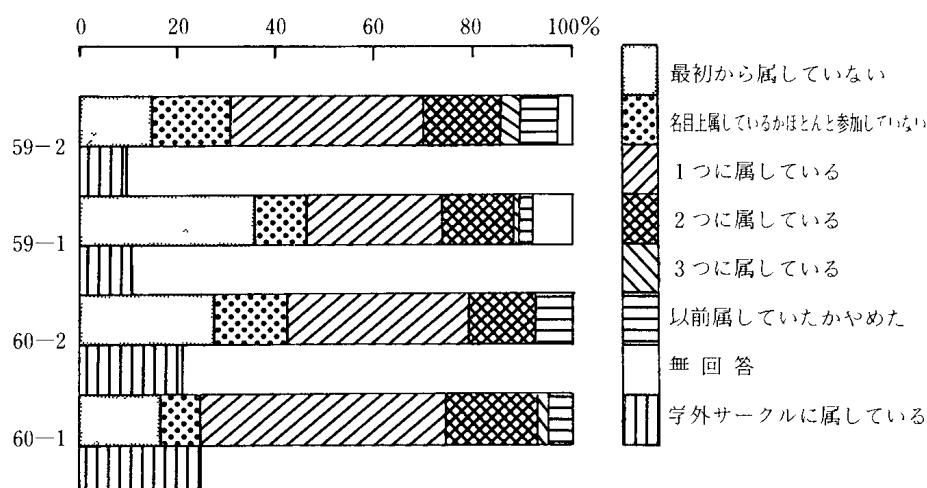


図1 課外活動のクラブに関する参加状況

入部の動機（表4）では，学生生活をより充実させるためとの理由が最も多く，1年生に比べ2年生の人数が多い。

表4 入部の動機（3つ以内）

学 年	59-2	59-1	60-2	60-1
項 目	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)
友人を得るため	26(20.0)	28(26.9)	20(16.1)	26(17.7)
知識，教養を身につけるため	23(17.7)	23(22.0)	26(21.0)	23(15.6)
自分の希望する進路に直結するため	1( 8)	1( 1.0)	0( 0)	4( 2.7)
大学内に自分の場が欲しかった	6( 4.6)	4( 3.8)	4( 3.2)	8( 5.4)
学生生活をより充実させるため	59(45.4)	39(37.5)	54(43.5)	50(34.0)
団体生活に魅力を感じて	3( 2.3)	1( 1.0)	3( 2.4)	3( 2.0)
趣味と一致したから	19(14.6)	15(14.4)	15(12.1)	14( 9.5)
楽しみのため	32(24.6)	19(18.3)	16(12.9)	31(21.1)
授業では得られないものを補うため	15(11.5)	13(12.5)	22(17.7)	18(12.2)
特技や技能を向上させるため	24(18.5)	19(18.3)	22(17.7)	26(17.7)
身体を鍛えるため	20(15.4)	6( 5.8)	13(10.5)	7( 4.8)
競技会へ参加するため	0( 0)	0( 0)	0( 0)	1( 7)
社会問題に関心があるため	0( 0)	0( 0)	0( 0)	0( 0)
自己成長のため	18(13.8)	11(10.6)	7( 5.6)	6( 4.0)
クラブの雰囲気がよかったため	9( 6.9)	6( 5.8)	11( 8.9)	8( 5.4)
教職員，指導者と接触したくて	1( 8)	0( 0)	2( 1.6)	2( 4.1)
リーダーノブを身につけたくて	0( 0)	0( 0)	0( 0)	1( 7)
好きだから	34(26.2)	25(24.0)	24(19.4)	24(16.3)
活動そのものをやりたくて	7( 5.4)	8( 7.7)	12( 9.7)	15(10.2)
その他	6( 4.6)	2( 1.9)	2( 1.6)	5( 3.4)

課外活動のクラブへの不参加の理由（表5）では，適当なクラブ・同好会がない，クラブの雰囲気が気に入らないという項目が減少している。また，通学時間が長い，自分の時間が持てなくなるという理由も減ってきている。このあたり学生生活を充実させようとする入部の動機と共に，クラブ活動への参加数を増加させている要因と思われる。クラブ活動に対する積極的な姿

勢がくみとれる。しかし、活動時間（表6）には変化はみられなかった。

表5 課外活動のクラブへの不参加の理由（4つ以内）  
（入部しない，参加しない，やめた理由）

学 年 項 目	59-2 N (%)	59-1 N (%)	60-2 N (%)	60-1 N (%)
学業のため時間がない	2( 3 3)	8( 8 9)	2( 2 4)	4( 7 7)
通学時間が長い	14(23 0)	29(32 2)	19(22 4)	10(19 2)
適当なクラブ，同好会がない	23(37 7)	39(43 3)	20(23 5)	13(25 0)
集団行動を好まない	1( 1 6)	1( 1 1)	1( 1 2)	2( 3 8)
勉強やアルバイトと両立できない	17(27 9)	25(27 8)	14(16 5)	9(17 3)
興味，関心がない	4( 6 6)	6( 6 7)	6( 7 1)	6(11 5)
現在のクラブ活動の雰囲気か気に入らない	18(29 5)	21(23 3)	17(20 0)	8(15 4)
なんとなく	12(19 7)	18(20 0)	8( 9 4)	5( 9 6)
経済的に負担になるから	3( 4 9)	6( 6 7)	6( 7 1)	3( 5 8)
健康上の理由	1( 1 6)	2( 2 2)	2( 2 2)	0( 0)
入部したかすることかなかった	4( 6 6)	4( 4 4)	8( 9 4)	0( 0)
入部制限などに妨げられた	0( 0)	2( 2 2)	1( 1 2)	1( 1 9)
レベルが高すぎる	0( 0)	6( 6 7)	3( 3 5)	0( 0)
レベルが低すぎる	8(13 1)	3( 3 3)	0( 0)	2( 3 8)
効果かあからない	2( 3 3)	0( 0)	4( 4 7)	1( 1 9)
練習が苦痛だから	2( 3 3)	3( 3 3)	4( 4 7)	2( 3 8)
設備が不十分だから	11(18 0)	6( 6 7)	4( 4 7)	3( 5 8)
自分の時間が持てなくなるから	21(34 4)	28(31 1)	21(24 7)	8(15 4)
その他	3( 4 9)	9(10 0)	8( 9 4)	8(15 4)
無回答	0( 0)	0( 0)	16(18 8)	11(21 2)

表6 過去1週間の課外活動時間

学 年 項 目	59-2 N (%)	59-1 N (%)	60-2 N (%)	60-1 N (%)
2時間未満	84(64 1)	71(58 2)	63(55 3)	90(63 8)
2—4時間未満	27(20 6)	21(17 2)	26(22 8)	28(19 7)
4—8時間未満	13( 9 9)	16(13 1)	21(18 4)	16(11 3)
8時間以上	5( 3 8)	4( 3 3)	1( 9)	1( 7)
無記入	2( 1 5)	10( 2 6)	3( 2 6)	6( 5 6)

### 3. 不安や悩みについて

現在の不安や悩みについて，60年度の調査では1位から3位まで順位づけを求めたが，1項目だけの選択を求めた59年度と同様の結果が得られた（表7）。

表 7 現在の不安や悩みについて

項 目	順 位 学 年	1 位 N (%)	2 位 N (%)	3 位 N (%)
勉学上のこと	59-2	1( 6)		
	59-1	55(30 4)		
	60-2	3( 1 8)	53(31 0)	23(13 5)
	60-1	78(44 3)	39(22 2)	18(10 2)
健康上のこと	59-2	1( 6)		
	59-1	3( 1 7)		
	60-2	8( 4 7)	12( 7 0)	22(12 9)
	60-1	5( 2 8)	8( 4 5)	12( 6 8)
友人，対人関係のこと	59-2	9( 5 7)		
	59-1	13( 7 2)		
	60-2	7( 4 1)	22(12 9)	20(11 7)
	60-1	14( 8 0)	27(15 3)	21(11 9)
就職や将来の進路のこと	59-2	117(73 6)		
	59-1	30(16 6)		
	60-2	135(78 9)	20(11 7)	6( 3 5)
	60-1	46(26 1)	62(35 2)	25(14 2)
異性問題について	59-2	4( 2 5)		
	59-1	13( 7 2)		
	60-2	6( 3 5)	23(13 5)	25(14 6)
	60-1	4( 2 3)	6( 3 4)	13( 7 4)
家族や家庭内の問題について	59-2	3( 1 9)		
	59-1	8( 4 4)		
	60-2	6( 3 5)	11( 6 4)	15( 8 8)
	60-1	10( 5 7)	9( 5 1)	8( 4 5)
学費，家計などについて	59-2	2( 1 3)		
	59-1	3( 1 7)		
	60-2	2( 1 2)	5( 2 9)	5( 2 9)
	60-1	2( 1 1)	3( 1 7)	2( 1 1)
政治，経済などについて	59-2	0( 0)		
	59-1	0( 0)		
	60-2	0( 0)	0( 0)	1( 6)
	60-1	0( 0)	0( 0)	0( 0)
特になし	59-2	3( 1 9)		
	59-1	13( 7 2)		
	60-2	3( 1 8)	0( 0)	0( 0)
	60-1	14( 8 0)	1( 6)	5( 2 8)
その他	59-2	2( 1 3)		
	59-1	3( 1 7)		
	60-2	1( 6)	2( 1 2)	1( 6)
	60-1	3( 1 7)	4( 2 3)	5( 2 8)

すなわち、1年生では、勉学上のこと、就職や将来の進路、友人・対人関係のことの順であり、2年生では圧倒的に就職や将来の進路のことが多く、次いで勉学上のこと、友人・対人関係および異性問題となっている。これらの不安や悩みは、1・2年生ともに多くは友人に相談することによって解決しようとしているが、なりゆきにまかせるといった解消法もついでみられた（表8）。

表 8 不安や悩みの解消法

学 年 項目	59-2 N (%)	59-1 N (%)	60-2 N (%)	60-1 N (%)	全体 N (%)
友人に相談する	74(46.5)	104(57.5)	99(57.9)	85(48.3)	365(52.7)
先輩に相談する	1(.6)	1(.6)	0(0)	1(.6)	3(.4)
読書などにより自分で解決する	13(8.2)	5(2.8)	10(5.8)	16(9.1)	44(6.4)
先生に相談する	8(5.3)	0(0)	1(.6)	3(1.7)	12(1.7)
家族に相談する	19(11.9)	11(6.1)	23(13.5)	10(5.7)	63(9.2)
なりゆきにまかせる	30(18.9)	36(19.9)	30(17.5)	54(30.7)	150(21.8)
専門家(カウンセラー)に相談する	0(0)	1(.6)	0(0)	0(0)	1(.1)
その他	8(5.3)	6(3.3)	4(2.3)	6(3.4)	24(3.5)
無回答	6(3.8)	17(9.4)	4(2.3)	1(.6)	28(4.1)

短大生活に入って間もない時点では勉学上の問題が不安、悩みの中心であるが、1年を経過してある程度大学生活に慣れた時点では、就職活動を目前に控えてその問題が中心となるのであろう。またその悩みの解決が友人に求められているのは大学時代における友人関係の大切さを物語っており、課外活動への入部の動機に友人を得るためとの理由がかなりみられる（表4）点でもうなずける。2年生になって若干家族への相談が増しているのは就職の問題についてということが考えられる。なりゆきにまかせるという回答が約22%みられるが、これは不安や悩みがそれほど深刻ではないとも考えられるし、また、現代の若者が一般に受身的であるということを反映しているのであらうか。そのうちなんとかなる、誰かが何とかしてくれるという態度の表れなのかもしれない。この点については別の分析で検討されねばならない問題である。

#### 4. 職業選択を中心とした将来の展望

卒業後の進路に対する期待については前年度の調査の結果も含めて尺度上の分布と尺度を得点化した場合の平均値が表9に示されている。全体として前年度と同様、「一生働けるような働きがいのある職につきたい」、「通勤時間の短い職場で働きたい」が上位を占めており、「就職する気はない」、「進学す



表 9 卒業後の進路に対する期待

問52の項目	学 年	尺 度 得 点					得 点	
		非常にそう だ	かなりそう だ	どちらとも いえない	あまりそう でない	全くそうで ない		
		5	4	3	2	1	N	$\bar{X} \cdot S D \cdot$
(1)一生働けるような働きが いのある職につきたい	59-2	40(25.5)	57(35.8)	30(18.9)	26(16.4)	6(3.8)	159	3.6 (1.14)
	59-1	59(32.6)	60(33.1)	39(21.5)	19(10.5)	4(2.2)	181	3.8 (1.07)
	60-2	37(21.8)	62(26.4)	43(25.3)	23(13.5)	5(2.9)	170	3.6 (1.14)
	60-1	71(40.3)	53(30.1)	31(17.6)	19(10.8)	2(1.1)	176	3.8 (1.06)
(2)結婚までの数年間を有意 義に過ごすための職につ きたい	59-2	25(15.7)	52(32.7)	42(26.4)	26(16.4)	14(8.8)	159	3.3 (1.18)
	59-1	32(17.7)	49(27.1)	39(21.5)	40(22.1)	21(11.6)	181	3.2 (1.28)
	60-2	24(14.0)	51(29.8)	41(24.0)	36(21.1)	19(11.1)	171	3.1 (1.23)
	60-1	35(19.9)	41(23.3)	41(23.3)	33(18.8)	26(14.8)	176	3.1 (1.34)
(3)専門的な技術を生かした 職につきたい	59-2	14(8.8)	57(35.8)	63(39.6)	24(15.1)	1(0.6)	159	3.4 (0.87)
	59-1	51(28.2)	69(38.1)	53(29.3)	7(3.9)	1(0.6)	181	3.9 (0.88)
	60-2	20(11.7)	66(38.6)	58(33.9)	24(14.0)	3(1.8)	171	3.4 (0.93)
	60-1	28(15.9)	82(46.6)	52(29.5)	14(8.0)	0(0)	176	3.7 (0.83)
(4)結婚相手を見つけるのに ふさわしいような職につ きたい	59-2	8(5.0)	33(20.8)	50(31.4)	41(25.8)	27(17.0)	159	2.7 (1.13)
	59-1	17(9.4)	36(19.9)	62(34.3)	45(24.9)	21(11.6)	181	2.9 (1.13)
	60-2	13(7.6)	45(26.3)	54(31.6)	31(18.1)	28(16.4)	171	2.9 (1.18)
	60-1	12(6.8)	30(17.0)	56(31.8)	41(23.3)	37(21.0)	176	2.6 (1.19)
(5)社会に貢献できるような 職につきたい	59-2	12(7.5)	60(37.7)	65(40.9)	21(13.2)	1(0.6)	159	3.4 (0.83)
	59-1	18(9.9)	51(28.2)	79(43.6)	28(15.5)	1(2.8)	181	3.3 (0.94)
	60-2	13(7.6)	64(37.4)	67(39.2)	26(15.2)	1(0.6)	171	3.4 (0.85)
	60-1	20(11.4)	50(28.4)	80(45.5)	22(12.5)	4(2.3)	176	3.3 (0.92)
(6)休日が多く、余暇や自由 時間の量の多い職につ きたい	59-2	35(22.0)	84(52.8)	26(16.4)	14(8.8)	0(0)	159	3.9 (0.85)
	59-1	35(19.3)	53(29.3)	70(38.7)	19(10.5)	4(2.2)	181	3.5 (0.99)
	60-2	45(26.3)	62(36.3)	52(30.4)	11(6.4)	1(0.6)	171	3.8 (0.92)
	60-1	31(17.6)	61(34.7)	63(35.8)	20(11.4)	1(0.6)	176	3.6 (0.93)
(7)内容よりも給料の高い職 につきたい	59-2	11(6.9)	26(16.4)	60(37.7)	52(32.7)	10(6.3)	159	2.8 (1.00)
	59-1	12(6.6)	39(21.5)	74(40.9)	44(24.3)	12(6.6)	181	3.0 (1.00)
	60-2	8(4.7)	26(15.2)	76(44.4)	51(29.8)	10(5.8)	171	2.8 (0.92)
	60-1	8(4.5)	25(14.2)	86(48.9)	52(29.5)	5(2.8)	176	2.9 (0.85)
(8)通勤時間の短い職場で働 きたい	59-2	56(35.2)	65(40.9)	25(15.7)	13(8.2)	0(0)	159	4.0 (0.92)
	59-1	46(25.4)	75(41.1)	36(19.9)	21(11.6)	3(1.7)	181	3.8 (1.01)
	60-2	64(37.4)	63(36.8)	28(16.4)	15(8.8)	1(0.6)	171	4.0 (0.97)
	60-1	44(25.0)	64(36.4)	53(30.1)	13(7.4)	2(1.1)	176	3.8 (0.95)
(9)知名度の高い職場で働き たい	59-2	30(18.9)	63(39.6)	45(28.3)	20(12.6)	1(0.6)	159	3.6 (0.95)
	59-1	24(13.3)	79(43.6)	62(34.3)	10(5.5)	6(3.3)	181	3.6 (0.91)
	60-2	20(11.7)	85(49.7)	45(26.3)	20(11.7)	1(0.6)	171	3.6 (0.86)
	60-1	22(12.5)	77(43.8)	57(32.4)	16(9.1)	4(2.3)	176	3.6 (0.90)
(10)就職する気はない	59-2	2(1.3)	3(1.9)	8(5.0)	15(9.4)	131(82.4)	159	1.3 (0.76)
	59-1	0(0)	0(0)	8(4.4)	15(8.3)	158(87.3)	181	1.2 (0.48)
	60-2	2(1.2)	2(1.2)	7(4.1)	11(6.4)	149(87.1)	171	1.2 (0.69)
	60-1	0(0)	1(0.6)	4(2.3)	19(10.8)	152(86.4)	176	1.2 (0.47)
(11)進学する (4年制、専修学校)	59-2	1(0.6)	1(0.6)	8(5.0)	9(5.7)	140(88.1)	159	1.2 (0.61)
	59-1	5(2.8)	7(3.9)	20(11.0)	10(5.5)	143(79.0)	181	1.4 (0.88)
	60-2	1(0.6)	1(0.6)	9(5.3)	7(4.1)	153(89.5)	171	1.1 (0.60)
	60-1	2(1.1)	5(2.9)	16(9.1)	15(8.6)	137(78.3)	175	1.4 (1.03)

・「非常にそうだ」から「全くそうでない」までを得点化した際の平均値と標準偏差

る」ものはきわめて少く、「結婚相手を見つけるのにふさわしい職につきたい」、「内容よりも給料の高い職につきたい」も相対的に少ない。

さて1年生と2年生の違いについてであるが、同一対象の1年(59-1)から2年(60-2)にかけての変動と異なる対象の1年と2年の差(59-1と59-2, 60-1と60-2)の型には一部の項目には若干の特異な型がみられるとしても、全体としては著しいちがいはあるとは思われないことが示唆される。すなわち、「専門的な技術を生かした職につきたい」という期待は1年生において高く、他方、「休日が多く余暇や自由時間の量の多い職につきたい」、「通勤時間の短い職場で働きたい」という期待は2年生に顕著であった。

こういった結果について、今年度の調査では同一対象の1年次(59-1)から2年次(60-2)への個々の変動の検討が可能なので分析をさらに進めてみる。同一対象の1年次から2年次の資料について、1年次から2年次への得点の差〔(60-2)-(59-1)〕をとり、その変動を表したのが表10であり、前年度(59-1)での5段階評定が今年度(60-2)どう変動したかを、表10の結果で正(高得点)方向と負(低得点)方向の分布の差が大きいと思われる項目について表したのが表11である。表10の得点の差について、正方向への変化、無変化、負変化かによって3分割し、同一対象の個体内変動を考慮に入れて、

表 10 同一対象に実施した2回の調査の得点の差〔(60-2)-(59-1)〕

	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	N	X <sup>2</sup>	変 化		
												正(+)	無(0)	負(-)
(1)一生働けるような働きか ある職につきたい	0	4	6	26	69	45	18	2	0	170	14.26***	-71	-282**	13**
(2)結婚までの数年間を有意義に 過ごすための職につきたい	1	5	15	29	66	31	19	3	1	170	9.95**	195	-331**	189
(3)専門的な技術を生かした職に つきたい	0	0	2	20	77	51	18	2	0	170	25.97***	-337**	-154	502**
(4)結婚相手を見つけるのにふさ わしいような職につきたい	1	3	12	32	73	31	14	4	0	170	4.48	157	-218*	97
(5)社会に貢献できるような職に つきたい	0	2	9	37	83	34	4	1	0	170	2.38	157	-57	-87
(6)休日が多く、余暇や自由時間 の量の多い職につきたい	0	1	15	54	71	23	5	1	0	170	30.82***	575**	-250*	-271**
(7)内容よりも給料の高い職につ きたい	1	1	6	29	75	44	10	4	0	170	6.39*	-52	-186	-263**
(8)通勤時間の短い職場で働きた い	1	5	8	51	75	20	10	0	0	170	21.93***	480**	-186	-253*
(9)知名度の高い職場で働きたい	1	2	10	27	87	33	8	2	0	170	.02	.05	.07	-13
(10)就職する気はない	1	3	2	10	140	10	4	0	0	170	67.40***	-451**	860**	-547**
(11)進学する(4年制、専修学校)	1	0	2	2	136	12	11	6	0	170	63.58***	-660**	796**	-271**

\*P<0.05    \*\*P<0.01    \*\*\*P<0.001

ここでは項目間の変化の型の差異，同一対象の変化の型の検出のために，3（上記3分割）×11（項目数）の $\chi^2$ 検定が行われた<sup>(2)</sup>。その結果は表10の右側に示されている。項目間の相対的な変化は，「一生働けるような働きがいのある職につきたい」，「専門的な技術を生かした職につきたい」が負方向に，「休日が多く余暇や自由時間の量の多い職につきたい」，「通勤時間の短い職場で働きたい」が正方向に変動している傾向がみられた。また，負方向にさせているのは前年度で5，4得点に評定した被験者であり，正方向には5を除く（これ以上あがりようがない）すべての段階で正の方向であった（表11）。

以上の同一対象の1年次から2年次への変動の分析の結果は，全体的なものと一致しており，入学後まもない頃の高い目標が就職を目前に控えて現実

表 11 問52に対する前年度（59-1）と今年度（60-2）の回答のマトリックス

今年度 (60 2)	前年度 (59-1)												
	尺度	非常に そうだ	かなり そうだ	とちら ともい えない	あまり そうて ない	全くそ うでな い	合計	非常に そうだ	かなり そうだ	とちら ともい えない	あまり そうで ない	全くそ うでな い	合計
		5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
		(1) 一生働けるような働きかゝのある職につきたい						(7) 内容よりも給料の高い職につきたい					
5	20	13	2	1	0	36	1	4	2	0	1	8	
4	22	26	8	4	3	63	4	12	7	2	1	26	
3	11	11	17	4	0	43	2	17	41	13	2	75	
2	1	6	9	6	1	23	3	5	19	19	5	51	
1	0	1	1	3	0	5	0	1	3	4	2	10	
合計	54	57	37	18	4	170	10	39	72	38	11	170	
	(3) 専門的な技術を生かした職につきたい						(8) 通勤時間の短い職場で働きたい						
5	15	3	1	0	0	19	29	24	5	5	1	64	
4	19	33	13	1	0	66	8	33	19	3	0	63	
3	8	22	25	3	0	58	3	8	9	7	0	27	
2	1	8	10	4	1	24	0	6	4	4	1	15	
1	0	1	2	0	0	3	0	0	1	0	0	1	
合計	43	67	51	8	1	170	40	71	38	19	2	170	
	(5) 社会に貢献できるような職につきたい						(11) 進学する						
5	4	5	4	0	0	13	0	0	0	0	1	1	
4	10	28	20	4	2	64	0	0	1	0	0	1	
3	1	13	40	11	1	66	0	1	5	0	2	8	
2	1	3	11	10	1	26	1	1	3	1	1	7	
1	0	0	0	0	1	1	0	5	10	8	130	153	
合計	16	49	75	25	5	170	1	7	19	9	134	170	
	(6) 休日が多く、余暇や自由時間の量の多い職につきたい												
5	20	15	9	1	0	45							
4	12	22	25	3	0	62							
3	1	7	27	13	3	51							
2	0	4	4	2	1	11							
1	0	1	0	0	0	1							
合計	33	49	65	19	4	170							

表 12 将来の進路について短大生活における何がどの程度役立つか

問53の項目	学 年	尺 度 得 占							得 占		
		非常に役に立つ	かなり役に立つ	少し役に立つ	どちらともいえない	どちらかといえば役に立たない	あまり役に立たない	全く役に立たない			
		7	6	5	4	3	2	1	N	$\bar{X}^*$	SD*
(1)語学力を身につける	59-2	42(26.4)	53(33.3)	33(20.8)	17(10.7)	7(4.4)	5(3.1)	2(1.3)	159	5.5	(1.38)
	59-1	77(42.5)	63(34.8)	29(16.0)	8(4.4)	2(1.1)	1(0.6)	1(0.6)	181	6.1	(1.04)
	60-2	52(30.4)	62(36.3)	27(15.8)	17(9.9)	6(3.5)	5(2.9)	2(1.2)	171	5.7	(1.35)
	60-1	77(44.0)	55(31.4)	24(13.7)	7(4.0)	8(4.6)	4(2.3)	0(0.0)	175	6.0	(1.25)
(2)コンピュータやワープロなどのOA機器をマスターする	59-2	61(38.4)	56(35.2)	28(17.6)	10(6.3)	3(1.9)	1(0.6)	0(0.0)	159	6.0	(1.04)
	59-1	97(53.6)	62(34.3)	13(7.2)	5(2.8)	1(0.6)	1(0.6)	2(1.1)	181	6.3	(1.02)
	60-2	75(43.9)	70(40.9)	18(10.5)	5(2.9)	1(0.6)	1(0.6)	1(0.6)	171	6.2	(0.96)
	60-1	45(25.7)	73(41.7)	37(21.1)	8(4.6)	4(2.3)	7(4.0)	1(0.6)	175	5.7	(1.27)
(3)可能な限り良い成績を取る	59-2	30(18.9)	52(32.7)	36(22.6)	27(17.0)	3(1.9)	9(5.7)	2(1.3)	159	5.3	(1.40)
	59-1	40(22.1)	77(42.5)	26(14.4)	31(17.1)	5(2.8)	1(0.6)	1(0.6)	181	5.6	(1.17)
	60-2	15(8.8)	50(29.2)	44(25.7)	40(23.4)	10(5.8)	7(4.1)	5(2.9)	171	4.9	(1.39)
	60-1	45(25.7)	61(34.9)	27(15.4)	30(17.1)	7(4.0)	5(2.9)	0(0.0)	175	5.5	(1.33)
(4)礼儀作法を身につける	59-2	86(54.1)	56(35.2)	11(6.9)	3(1.9)	2(1.3)	0(0.0)	1(0.6)	159	6.4	(0.91)
	59-1	95(52.5)	66(36.5)	16(8.8)	3(1.7)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.6)	181	6.4	(0.82)
	60-2	105(61.8)	56(32.7)	6(3.5)	1(0.6)	2(1.2)	0(0.0)	0(0.0)	171	6.5	(0.73)
	60-1	110(62.9)	49(28.0)	13(7.4)	1(0.6)	2(1.1)	0(0.0)	0(0.0)	175	6.5	(0.78)
(5)すぐ役に立つ知識よりも幅広い教養を身につける	59-2	31(19.5)	68(42.8)	30(18.9)	24(15.1)	6(3.8)	0(0.0)	0(0.0)	159	5.6	(1.08)
	59-1	26(14.4)	65(35.9)	43(23.8)	39(21.5)	4(2.2)	3(1.7)	1(0.6)	181	5.3	(1.18)
	60-2	33(19.3)	69(40.4)	31(18.1)	32(18.7)	5(2.9)	1(0.6)	0(0.0)	171	5.5	(1.12)
	60-1	45(25.7)	66(37.7)	27(15.4)	31(17.7)	1(0.6)	2(1.1)	3(1.7)	175	5.6	(1.25)
(6)クラブ活動に十分にする	59-2	6(3.8)	40(25.2)	53(33.3)	42(26.4)	9(5.7)	6(3.8)	3(1.9)	159	4.8	(1.22)
	59-1	8(4.4)	22(12.2)	63(34.8)	61(33.7)	14(7.7)	8(4.4)	5(2.8)	181	4.5	(1.23)
	60-2	8(4.7)	34(20.0)	53(31.2)	50(29.4)	16(9.4)	8(4.7)	1(0.6)	170	4.6	(1.25)
	60-1	20(11.4)	31(17.7)	60(34.3)	44(25.1)	6(3.4)	11(6.3)	3(1.7)	175	4.8	(1.39)
(7)表現力(書くこと、話すこと)を身につける	59-2	53(33.3)	73(45.9)	22(13.8)	9(5.7)	1(0.6)	1(0.6)	0(0.0)	159	6.0	(0.93)
	59-1	70(38.7)	71(39.2)	31(17.1)	6(3.3)	2(1.1)	0(0.0)	1(0.6)	181	6.1	(0.96)
	60-2	70(40.9)	77(45.0)	19(11.1)	3(1.8)	2(1.2)	0(0.0)	0(0.0)	170	6.8	(0.80)
	60-1	104(59.4)	50(28.6)	17(9.7)	1(0.6)	2(1.1)	1(0.6)	0(0.0)	175	6.4	(0.87)
(8)友人関係を広め、深める	59-2	55(34.6)	59(37.1)	31(19.5)	10(6.3)	3(1.9)	1(0.6)	0(0.0)	159	5.9	(1.03)
	59-1	73(40.3)	59(32.6)	33(18.2)	13(7.2)	2(1.1)	0(0.0)	1(0.6)	181	6.0	(1.06)
	60-2	54(31.6)	78(45.6)	23(13.5)	13(7.6)	2(1.2)	1(0.6)	0(0.0)	171	6.0	(0.98)
	60-1	170(40.0)	66(37.7)	23(13.1)	14(8.0)	1(0.6)	1(0.6)	0(0.0)	175	6.1	(1.02)
(9)学友会で活躍する	59-2	7(4.4)	19(11.9)	43(27.0)	65(40.9)	10(6.3)	7(4.4)	8(5.0)	159	4.3	(1.31)
	59-1	8(4.4)	25(13.8)	42(23.2)	79(43.6)	10(5.5)	9(5.0)	8(4.4)	181	4.4	(1.31)
	60-2	9(5.3)	27(15.8)	36(21.1)	63(36.8)	11(6.3)	17(9.9)	8(4.7)	171	4.3	(1.46)
	60-1	10(5.7)	24(13.8)	34(19.5)	72(41.4)	11(6.3)	12(6.9)	11(6.3)	175	4.3	(1.53)
(10)各種の資格、免許を取る	59-2	65(40.9)	55(34.6)	31(19.5)	8(5.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	159	6.1	(0.81)
	59-1	88(48.6)	69(38.1)	19(10.5)	3(1.7)	1(0.6)	0(0.0)	1(0.6)	181	6.3	(0.87)
	60-2	61(35.7)	71(41.5)	27(15.8)	9(5.3)	1(0.6)	2(1.2)	0(0.0)	171	6.0	(0.98)
	60-1	76(43.7)	65(37.4)	27(15.5)	5(2.9)	0(0.0)	1(0.6)	0(0.0)	174	6.2	(1.01)
(11)中央タイプを土産させる	59-2	41(25.8)	58(36.5)	32(20.1)	18(11.3)	4(2.5)	5(3.1)	1(0.6)	159	5.6	(1.28)
	59-1	75(41.4)	71(39.2)	20(11.0)	11(6.1)	2(1.1)	1(0.6)	3(1.6)	181	6.1	(1.04)
	60-2	42(24.6)	54(31.6)	49(28.7)	18(10.5)	1(0.6)	2(1.2)	3(1.8)	171	5.6	(1.22)
	60-1	48(27.6)	51(29.3)	51(29.3)	17(9.7)	3(1.7)	4(2.3)	0(0.0)	174	5.6	(1.26)
(12)学生生活を楽しむ	59-2	38(23.9)	43(27.0)	35(22.0)	36(22.6)	4(2.5)	2(1.3)	1(0.6)	159	5.4	(1.27)
	59-1	36(19.9)	33(18.2)	47(26.0)	53(29.3)	7(3.9)	3(1.7)	2(1.1)	181	5.1	(1.32)
	60-2	34(19.9)	49(28.7)	40(23.4)	40(23.4)	1(0.6)	2(1.2)	0(0.0)	171	5.3	(1.26)
	60-1	28(16.1)	48(27.6)	42(24.1)	43(24.7)	6(3.4)	7(4.0)	0(0.0)	174	5.2	(1.37)
(13)本を山読む	59-2	55(34.6)	62(39.0)	32(20.1)	9(5.7)	1(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	159	6.0	(0.91)
	59-1	62(34.3)	62(34.3)	43(23.8)	12(6.6)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.1)	181	5.9	(1.06)
	60-2	55(32.2)	75(43.9)	29(17.0)	10(5.8)	2(1.2)	0(0.0)	0(0.0)	171	6.0	(0.91)
	60-1	80(46.0)	52(29.9)	27(15.5)	14(8.0)	1(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	174	6.1	(1.01)
(14)アルバイトをする	59-2	4(2.5)	19(11.9)	48(30.2)	55(34.6)	24(15.1)	6(3.8)	3(1.9)	159	4.3	(1.17)
	59-1	14(7.7)	30(16.6)	66(36.5)	53(29.3)	10(5.5)	5(2.8)	3(1.7)	181	4.8	(1.21)
	60-2	12(7.0)	36(21.1)	64(37.4)	42(24.6)	9(5.3)	7(4.1)	1(0.6)	171	4.9	(1.18)
	60-1	12(6.9)	25(14.4)	69(39.7)	48(27.6)	8(4.6)	9(5.2)	3(1.7)	174	4.7	(1.32)

\*「非常に役に立つ」から「全く役に立たない」までを得点化したさいの平均値と標準偏差

的になってきていることを示している。

次に、かかる将来の進路への期待に対してどのようなことが役に立つか(問53)を調べた結果が前年度の調査結果とともに表12に示されており、同一対象の1年次(59-1)から2年次(60-2)の資料について問52と同様の手続きで個々の得点の差〔(60-2)-(59-1)〕を表したものが表13、その中で正方向と負方向の分布の差が大きいと思われる項目について、前年度(59-1)の7段階評定が今年度(60-2)どう変動したかを表したのが表14である。

得点の平均値からみれば(表12)、全般的にいずれの項目も役に立つとしているが、そのうち、「礼儀作法を身につける」、「表現力を身につける」、「コンピュータやワープロなどのOA機器をマスターする」、「各種の資格、免許をとる」が相対的に得点が高く、「友人関係を広める」、「本を沢山読む」といった項目がつづく。

学年のちがいについては、平均値でみた場合(表12)、2年生において全般的に「語学力を身につける」、「可能なかぎり良い成績をとる」、「各種の資格、免許をとる」の項目の得点がややさがっている傾向がみられる。同一対象の1年次(59-1)から2年次(60-2)への変動に眼をむけてみると(表13、表14)、項目間の相対的変動は $\chi^2$ 検定(3×14)の結果、「語学力を身につける」、「可能なかぎり良い成績をとる」、「英文タイプを上達させる」が負方向へ、「礼儀作法を身につける」、「すぐ役に立つ知識よりも幅広い教養を身につける」、「表現力を身につける」、「クラブ活動を十分にやる」、「学友会で活躍する」

表 13 同一対象に実施した2回の調査の得点の差〔(60-2)-(59-1)〕

	6	5	4	3	2	1	0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	N	変 化			
															X <sup>2</sup>	正(+)	無(0)	負(-)
(1)語学力を身につける	1	0	0	1	5	20	71	43	20	8	1	0	0	170	12 08**	-2 76**	- 61	3 21**
(2)コンピュータやワープロなどのOA機器をマスターする	1	0	0	2	4	23	91	36	10	2	1	0	0	170	7 25*	-2 20*	2 60**	- 74*
(3)可能な限り良い成績をとる	0	0	2	5	5	10	46	56	32	7	6	0	1	170	65 09***	-3 68**	-4 62**	8 36**
(4)礼儀作法を身につける	1	0	0	1	6	32	110	15	2	1	2	0	0	170	37 46***	- 36	5 65**	-5 71**
(5)すぐ役に立つ知識よりも幅広い教養を身につける	1	0	2	4	20	32	74	20	11	5	1	0	0	170	11 94**	3 15**	- 13	-2 79**
(6)クラブ活動を十分にやる	0	0	3	6	14	36	63	36	10	1	0	0	1	170	9 33**	3 15**	-1 89	- 91
(7)表現力(書くこと、話すこと)を身につける	1	0	0	1	13	34	84	27	7	2	1	0	0	170	7 31*	1 31	1 48	-2 79**
(8)友人関係を広め、深める	1	0	2	0	10	34	77	32	11	3	0	0	0	170	1 68	94	36	-1 25
(9)学友会で活躍する	0	0	3	7	19	27	56	31	15	10	1	1	0	170	9 86**	2 60**	-3 01**	81
(10)各種の資格、免許を取る	1	0	0	0	4	24	80	50	7	1	2	1	0	170	5 47	-2 39*	84	1 32
(11)英文タイプを上達させる	0	0	1	0	8	19	58	57	20	5	1	1	0	170	26 10***	-2 57*	-2 69**	5 27**
(12)学生生活を楽しむ	1	0	0	7	16	32	67	32	11	3	1	0	0	170	6 27*	2 60**	-1 25	-1 08
(13)本を沢山読む	1	1	0	0	5	32	90	33	6	1	1	0	0	170	6 13*	54	2 44*	-2 11*
(14)アルバイトをする	0	1	1	2	6	36	80	29	11	3	1	0	0	170	2 38	75	84	-1 59

\* P<0.05    \*\* P<0.01    \*\*\* P<0.001

表 14 問53に対する前年度（59-1）と今年度（60-2）の回答のマトリックス

今年度(60-2)

前年度(59-1)

(1) 語学力を身につける

(5) すく役に立つ知識よりも幅広い教養を身につける

尺度	非常に役に立つ	かなり役に立つ	少し役に立つ	どちらともいえない	どちらかといえば役に立つ	あまり役に立たない	全く役に立たない	合 計	非常に役に立つ	かなり役に立つ	少し役に立つ	どちらともいえない	どちらかといえば役に立つ	あまり役に立たない	全く役に立たない	合 計
	7	6	5	4	3	2	1		7	6	5	4	3	2	1	
7	35	10	3	1	0	0	1	50	10	11	6	3	1	0	1	32
6	24	25	10	1	0	0	0	60	8	35	14	11	0	1	0	69
5	9	14	5	0	0	0	0	28	2	6	14	6	2	1	0	31
4	1	7	4	6	0	1	0	19	2	8	6	14	1	1	0	32
3	0	3	2	0	0	0	0	5	1	3	0	0	1	0	0	5
2	0	1	3	1	1	0	0	6	0	0	0	1	0	0	0	1
1	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	69	60	27	10	2	1	1	170	23	63	40	35	5	3	1	170

(2) コンピュータやワープロなどのOA機器をマスターする

(7) 表現力(書くこと、話すこと)を身につける

	7	6	5	4	3	2	1	合 計	7	6	5	4	3	2	1	合 計
7	53	15	2	2	0	0	1	73	40	19	9	1	0	0	1	70
6	28	34	6	1	0	0	0	69	19	41	14	2	0	0	0	76
5	8	7	2	2	1	0	0	20	5	8	3	1	2	0	0	19
4	1	2	1	1	0	0	0	5	2	1	0	0	0	0	0	3
3	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2
2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	90	60	11	6	1	0	2	170	67	69	27	4	2	0	1	170

(3) 可能な限り良い成績をとる

(10) 各種の資格、免許をとる

	7	6	5	4	3	2	1	合 計	7	6	5	4	3	2	1	合 計
7	7	2	1	4	1	0	0	15	42	16	1	0	0	0	1	60
6	16	25	4	3	1	0	0	49	33	31	6	1	0	0	0	71
5	7	26	6	4	0	0	1	44	6	11	7	2	1	0	0	27
4	4	19	9	7	0	1	0	40	1	1	6	0	0	1	0	9
3	2	1	2	4	1	0	0	10	1	0	0	0	0	0	0	1
2	0	3	0	3	1	0	0	7	1	1	0	0	0	0	0	2
1	1	0	1	2	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	37	76	23	27	5	1	1	170	84	60	20	3	1	1	1	170

(4) 礼儀作法を身につける

(11) 英文タイプを上達させる

	7	6	5	4	3	2	1	合 計	7	6	5	4	3	2	1	合 計
7	74	24	4	1	0	0	1	104	26	10	4	0	1	0	0	41
6	13	34	8	2	0	0	0	57	23	23	5	3	0	0	0	54
5	2	2	2	0	0	0	0	6	11	29	5	3	1	0	0	49
4	1	0	0	0	0	0	0	1	3	7	4	3	1	0	0	18
3	2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	2
2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	92	60	14	3	0	0	1	170	65	69	20	12	3	0	1	170

る」が正方向に変化している。技能的なことよりも教養あるいは学生生活そのものがより役に立つとうけとめられていることを示している。

次に、前年度と同様、将来への期待（問52）の構造の分析と期待の実現のための当面の目標（問53）の関係の分析が試みられた。まず将来の進路への期待の構造をクラスター分析<sup>(3)(4)</sup>によってみると、2つのグループ、すなわち「キャリア志向」（項目1, 3, 5, 10, 11〔10, 11は1, 3, 5に対して負の連関をもつ〕）と「実利志向」（項目2, 4, 6, 7, 9, 8）に大別され（図2）、これは前年度と同様の結果であった。また問53の構造を相関係数をもとに主成分分析法によって因子を抽出し、バリマックス法によって因子の回転を試みることによって検討した。その結果は前年度の結果とともに表15に示されている。ここでも前年度と同様に4つの因子が抽出された。すなわち、A：友人関係を広め学生生活を楽しむことが将来に役立つとする社交派の因子、B：資格、免許をとり、タイプ、コンピュータをも習熟することが将来に役立つとする技能因子、C：教養を重視する知識因子、D：学友会、クラブ活動を重視する仲間因子である。

さて両者の関係は問52の各項目の得点と問53の因子分析にもとづく因子得点との相関係数を求めることによって表16に示されている。

両者の関連について同一対象の1年次から2年次への変化を中心にして検討を試みると、1年次においては、「一生働けるような働きがいのある職につ

表 15 回転後の因子行列

	A		B		C		D		共通性	
	59(1+2)	60(1+2)	59(1+2)	60(1+2)	59(1+2)	60(1+2)	59(1+2)	60(1+2)	59(1+2)	60(1+2)
(1)語学力を身につける	- 02495	- 06730	40348	41321	61809	30850	- 07882	04294	55167	27229
(2)コンピュータやワープロ セッサなどのOA機器 をマスターする	07218	03364	58241	56504	30252	10200	08011	11831	44235	34480
(3)可能な限り良い成績をと る	13034	01029	22343	31830	40869	19724	17432	06179	26433	14414
(4)礼儀作法を身につける	34486	20772	24739	26963	20677	42414	42418	03263	40282	29681
(5)すぐ役に立つ知識よりも 幅広い教養を身につける	27670	13853	- 04166	06853	50033	41621	18988	08768	36468	20481
(6)クラブ活動を十分にす る	23909	20655	03167	00080	26371	25906	59555	69452	48239	59213
(7)表現力（書くこと、話 すこと）を身につける	49291	24998	16810	08707	31669	58936	29252	05066	45708	41999
(8)友人関係を広め、深め る	79072	58462	11667	- 00995	09340	37106	08158	12922	65708	49627
(9)学友会に活躍する	10269	19409	18786	24207	- 01268	- 03940	66761	42127	49170	27529
(10)各種の資格、免許をと る	24909	31098	65535	66437	- 00835	- 00686	17699	- 04042	52293	53978
(11)英文タイプを上達させ る	03621	24065	60829	66929	12238	04037	10825	08970	39802	51553
(12)学生生活を楽しむ	62020	65078	04974	10583	07078	13878	14711	17853	41378	48585
(13)本を沢山読む	44462	61178	13327	17434	34244	25779	13780	05033	35170	47365
(14)アルバイトをする	42196	47465	04693	12730	04164	07309	08180	16793	18867	27504

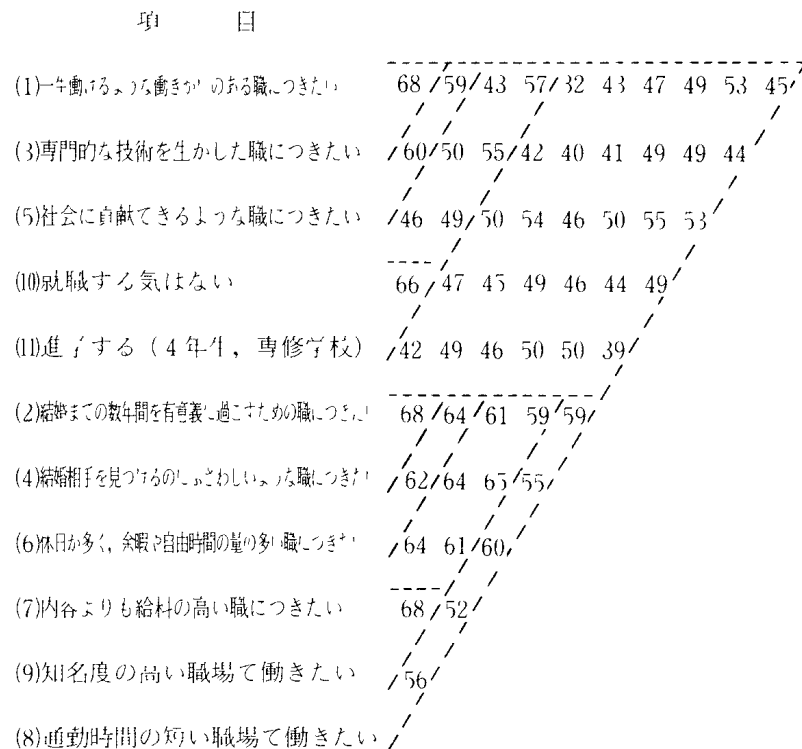


図2 相関行列(0-100の値)にもとづく樹状図(問52)  
平均距離法によるクラスタリンク

きたい」、「専門的な技術を生かした職につきたい」、「社会に貢献できるような職につきたい」といった「キャリア志向」の態度と資格因子(B)や教養因子(C)と結びついているが、2年次になるとその結びつきがうすれ、「結婚までの数年間を有意義に過ごすための職につきたい」、「結婚相手を見つけるのにふさわしい職につきたい」といったむしろ「実利志向」の態度と資格因子が関連をもってきており、「キャリア志向」の態度は仲間因子(D)とかかわりをもってくる傾向がみられる。すなわち、1年次から2年次にかけて、通路一目標関係<sup>5)</sup>の把握が変化することを示しており、専門的な技術をもって一生の仕事とし、社会的な貢献を自覚し得る職業につきたいとの展望のもとに、そのためにはさまざまな技能習得のための授業を中心とした諸活動が役に立つという意識構造であったのが、2年次においては、どちらかといえはかかる「キャリア志向」のために、むしろクラブ活動を十分にし、学友会で活躍することが有益であると把握される傾向にある。逆に、結婚までの数年間を比較的余暇の多い身近な、しかし知名度の高い、できれば適当な結婚相手をみつける職場を得たいという「実利志向」のために資格、免許をとったり、コンピュータやワードプロセッサなどのOA機器をマスターすることが役立つと考えられている傾向がみられる。



表 16 問52の得点と問53の因子得点との相関係数 (ピアソン)

因子	A				B				C				D			
	(8) 友人関係を広め、深める (12) 学生生活を楽しむ				(10) 各種の資格、免許をとる (11) 英文タイプを上達させる (2) コンピュータやワードプロセッサなどのOA機器をマスターする				(5) すく役に立つ知識より幅広い教養を身につける (7) 表現力(書くこと、話すこと)を身につける				(6) クラブ活動を十分にする (9) 学友会で活躍する			
問52の項目	59-2	59-1	60-2	60-1	59-2	59-1	60-2	60-1	59-2	59-1	60-2	60-1	59-2	59-1	60-2	60-1
問53の 主たる項目																
学 年																
(1)一生働けるような働きたい	025	060	032	223 <sup>**</sup>	002	187 <sup>*</sup>	052	077	127	195 <sup>**</sup>	046	043	069	102	055	048
(2)結婚までの数年間に有意義に過ごすための職につきたい	031	078	173 <sup>*</sup>	078	101	051	175 <sup>*</sup>	198 <sup>**</sup>	032	073	057	044	116	056	049	070
(3)専門的な技術を生かした職につきたい	023	148 <sup>*</sup>	101	084	135	297 <sup>***</sup>	096	208 <sup>**</sup>	078	308 <sup>***</sup>	006	091	093	136	197 <sup>**</sup>	040
(4)結婚相手を見つかるのにふさわしい職につきたい	119	064	073	037	100	063	238 <sup>**</sup>	003	038	020	057	098	033	154 <sup>*</sup>	034	084
(5)社会に貢献できるような職につきたい	203 <sup>**</sup>	144 <sup>+</sup>	149 <sup>+</sup>	179 <sup>*</sup>	113	087	115	198 <sup>**</sup>	074	268 <sup>***</sup>	162 <sup>*</sup>	061	146	296 <sup>***</sup>	170 <sup>*</sup>	164 <sup>*</sup>
(6)休日が多く、余暇や自由時間の量の多い職につきたい	100	140 <sup>+</sup>	139 <sup>+</sup>	061	074	183 <sup>*</sup>	166 <sup>*</sup>	029	095	019	017	022	086	091	002	089
(7)内容よりも給料の高い職につきたい	055	042	030	133 <sup>+</sup>	084	052	190 <sup>*</sup>	123	084	059	108	031	078	102	112	042
(8)通勤時間の短い職場で働きたい	015	085	023	030	042	057	089	122	189 <sup>*</sup>	148 <sup>*</sup>	054	003	102	091	078	229 <sup>**</sup>
(9)知名度の高い職場で働きたい	004	168 <sup>*</sup>	000	029	172	167 <sup>*</sup>	264 <sup>***</sup>	283 <sup>***</sup>	117	106	178	047	109	113	143	022
(10)就職する気はない	084	008	089	050	062	150 <sup>*</sup>	108	152 <sup>*</sup>	155 <sup>+</sup>	052	081	227 <sup>**</sup>	108	007	145 <sup>+</sup>	110
(11)進学する(4年制、専修学校)	110	028	032	133 <sup>+</sup>	091	117	011	133 <sup>+</sup>	099	094	043	023	207 <sup>**</sup>	015	001	062

<sup>+</sup> P<0 10    \* P<0 05    \*\* P<0 01    \*\*\* P<0 001

表 17 現在の短大生活に対する態度 (問55)

問55の項目	学 年	尺 度					得 点	
		得 点						
		5 (1)	4 (2)	3 (3)	2 (4)	1 (5)	N	$\bar{X}^{**}$ S D <sup>**</sup>
(1)毎日充実した学生生活 (クラブ, その他)を送っている	60-2	9( 5 4)	62(36 9)	53(31 5)	34(20 1)	10( 6 0)	168	3 2 (1 00)
	60-1	6( 3 4)	49(28 0)	57(32 6)	51(29 1)	12( 6 9)	175	2 9 ( 99)
(2)毎日充実した学業生活を送っている	60-2	3( 1 8)	34(20 1)	80(47 3)	46(27 2)	6( 3 6)	169	2 9 ( 82)
	60-1	3( 1 7)	23(13 1)	75(42 9)	62(35 4)	12( 6 9)	175	2 7 ( 85)
(3)朝の目覚めがよい	60-2	4( 2 4)	38( 2 5)	31(18 3)	68(40 2)	28(16 6)	169	2 5 (1 08)
	60-1	9( 5 1)	21(12 0)	30(17 1)	65(37 1)	50(28 6)	175	2 3 (1 15)
(4)情性的な生活を送っている*	60-2	7( 4 2)	31(18 6)	87(52 1)	32(19 2)	10( 6 0)	167	3 0 ( 88)
	60-1	7( 4 0)	52(29 7)	83(47 4)	29(16 6)	4( 2 3)	175	2 8 ( 83)
(5)学業に集中できない*	60-2	8( 4 7)	32(18 9)	76(45 0)	50(29 6)	3( 1 8)	169	3 0 ( 86)
	60-1	11( 6 3)	49(28 0)	78(44 6)	34(19 4)	3( 1 7)	175	2 8 ( 87)
(6)短大へ通うのが楽しい	60-2	8( 4 7)	52(30 8)	72(42 6)	28(16 6)	9( 5 3)	169	3 1 ( 93)
	60-1	14( 8 0)	43(24 6)	71(40 6)	36(20 6)	11( 6 3)	175	3 1 (1 01)
(7)精神的に疲れている*	60-2	12( 7 1)	60(35 5)	48(28 4)	41(24 3)	8( 4 7)	169	2 8 (1 02)
	60-1	19(10 9)	67(38 3)	56(32 0)	28(16 0)	5( 2 9)	175	2 6 ( 97)
(8)肉体的に疲れている*	60-2	8( 4 7)	52(30 8)	58(34 3)	41(24 3)	10( 5 9)	169	3 0 ( 99)
	60-1	16( 9 1)	58(33 1)	61(34 9)	33(18 9)	7( 4 0)	175	2 8 ( 99)
(9)就職のことか気にかかる	60-2	97(57 0)	61(36 1)	8( 4 7)	2( 1 2)	1( 6)	169	4 5 ( 70)
	60-1	33(18 9)	83(47 4)	34(19 4)	20(11 4)	5( 2 9)	175	3 7 (1 00)
(10)短大へ行きたくない*	60-2	1( 6)	6( 3 6)	35(20 7)	48(28 4)	79(46 7)	169	4 2 ( 92)
	60-1	4( 2 3)	11( 6 3)	40(23 0)	57(32 8)	62(35 6)	174	3 9 (1 02)
(11)勉強のことか気にかかる	60-2	28(16 6)	92(54 4)	34(20 1)	15( 8 9)	0( 0)	169	3 8 ( 82)
	60-1	51(29 1)	88(50 3)	26(14 9)	10( 5 7)	0( 0)	175	4 0 ( 82)
(12)何となく倦怠感がある*	60-2	7( 4 1)	56(14 8)	74(43 8)	25(14 8)	7( 4 1)	169	2 8 ( 88)
	60-1	11( 2 9)	65(11 4)	74(42 3)	20(11 4)	5( 2 9)	175	2 7 ( 86)
(13)睡眠不足である	60-2	16( 9 5)	60(30 1)	51(32 0)	34(20 1)	8( 4 7)	169	3 2 (1 03)
	60-1	17( 9 7)	73(32 6)	49(28 6)	31(17 8)	4( 2 3)	174	3 4 ( 96)
(14)クラスの雰囲気にとけこんでいる	60-2	20(11 8)	98(58 0)	43(25 4)	6( 3 6)	2( 1 2)	169	3 8 ( 75)
	60-1	18(10 3)	91(52 0)	54(30 9)	10( 5 7)	2( 1 1)	175	3 6 ( 79)
(15)何をやっているかわからない	60-2	11( 6 5)	36(21 3)	54(32 0)	52(30 1)	16( 9 5)	169	3 2 (1 07)
	60-1	13( 7 4)	38(21 7)	50(28 6)	57(32 6)	17( 9 7)	175	3 2 (1 10)
(16)自分の存在感がある	60-2	7( 4 1)	50(29 6)	98(58 0)	13( 7 7)	1( 6)	169	3 3 ( 69)
	60-1	4( 2 3)	41(23 4)	105(60 0)	23(13 1)	2( 1 1)	175	3 1 ( 70)
(17)進路を間違ったような気がする	60-2	6( 3 6)	21(12 4)	44(26 0)	66(39 1)	32(18 9)	169	3 6 (1 04)
	60-1	11( 6 3)	26(14 9)	54(31 0)	50(28 7)	33(19 0)	174	3 4 (1 14)
(18)期待と現実のすれを感じる*	60-2	16( 9 5)	53(31 4)	54(32 0)	34(20 1)	12( 7 1)	169	2 8 (1 07)
	60-1	26(14 9)	56(32 0)	57(32 6)	27(15 4)	9( 5 1)	175	2 4 (1 07)
(19)短大は中途半端な感しかする*	60-2	13( 7 7)	34(20 1)	48(28 4)	48(28 4)	26(15 4)	169	3 2 (1 16)
	60-1	13( 7 4)	31(17 7)	59(33 7)	45(25 7)	27(15 4)	175	3 2 (1 14)
(20)本学の学生として誇りを もっている	60-2	14( 8 3)	70(41 4)	68(40 2)	13( 7 7)	4( 2 4)	169	3 5 ( 84)
	60-1	10( 5 7)	44(25 1)	87(49 7)	26(14 9)	8( 4 6)	175	3 1 ( 89)

\* この項目は「全くそうでない」(5点)から「非常にそうた」(1点)まで逆に得点化されている

\*\* 「非常にそうた」から「全くそうでない」までを得点化したさいの平均値と標準偏差

このような意識構造の変化が何に由来するのかは今後詳しい分析を待たねばならないが、これまでの結果をあわせて考察してみると、将来の就職に備えて実務教育にも力を注いでいる短大を選択した学生が、大学生活を経験していくなかで、短大の学生生活そのものが将来の進路に結びつくと思われている。学生生活における諸活動を懸命にするなかで、人間関係のあり方等を学び、成長することが将来につながると考えられていると思われる。一方、実務的技能はむしろ実利的な進路のために身につけようとしていると考えられる。すなわち、技能の獲得そのものが長い将来にわたっての展望と結びつかず、単なる目先のこしかけ的就職のための手段とみなされている観がある。短大における技能教育の重要性と有益性は十分理解されているものの、専門職としてそれを生かすほどには身につけることができない現実につづかるといえる。また、昨年の論文でも論じられたが、卒業後の職場をいわゆる企業への帰属として把握し、真にいかなる職能に従事したいかという意識が明確でないからと思われる。どこの組織に属するかが優先され、どういった役割を果すことが期待されているのかが二次的になっている現実を反映しているとも考えられる。

また以上の結果は、一面、短大の特徴、すなわち、実務教育のみに重点がおかれる専修学校とは異なって、一般的教養を深め、学生生活における諸活動も重視する短大の目標と合致してくるとも考えられるのである。

企業側の短大に対する要望としても、技能を習得しているにこしたことはないが、それよりも、基礎的知識と教養、そして思考力および豊かな人間性を身につけて欲しいという考え方が多い<sup>(6)</sup>ことを考えるにつけ、就職を目標とする短大の望まれる姿が浮き彫りにされてくるように思われる。短大における専門教育のあり方が問われる問題でもあろう。

## 5. 短大生活への適応

大学に入学した学生がどのような過程で学生生活に慣れ親しみ、適応していくのか、あるいは不適応を生ずるのであろうか。この種の論議は重要であり、さまざまな観点から検討されているものの<sup>(7,8)</sup>、明らかでない部分もまた多い問題である。

われわれは、短大生が現在の短大生活全般にどのような態度を有しているのか、また、どの程度適応しているのかを調べるため、短大生活のいろいろの側面を表していると思われる20個の項目について5段階評定を求めた(表17)。項目4, 5, 7, 8, 10, 12, 15, 17, 18, 19(表中\*印のついている

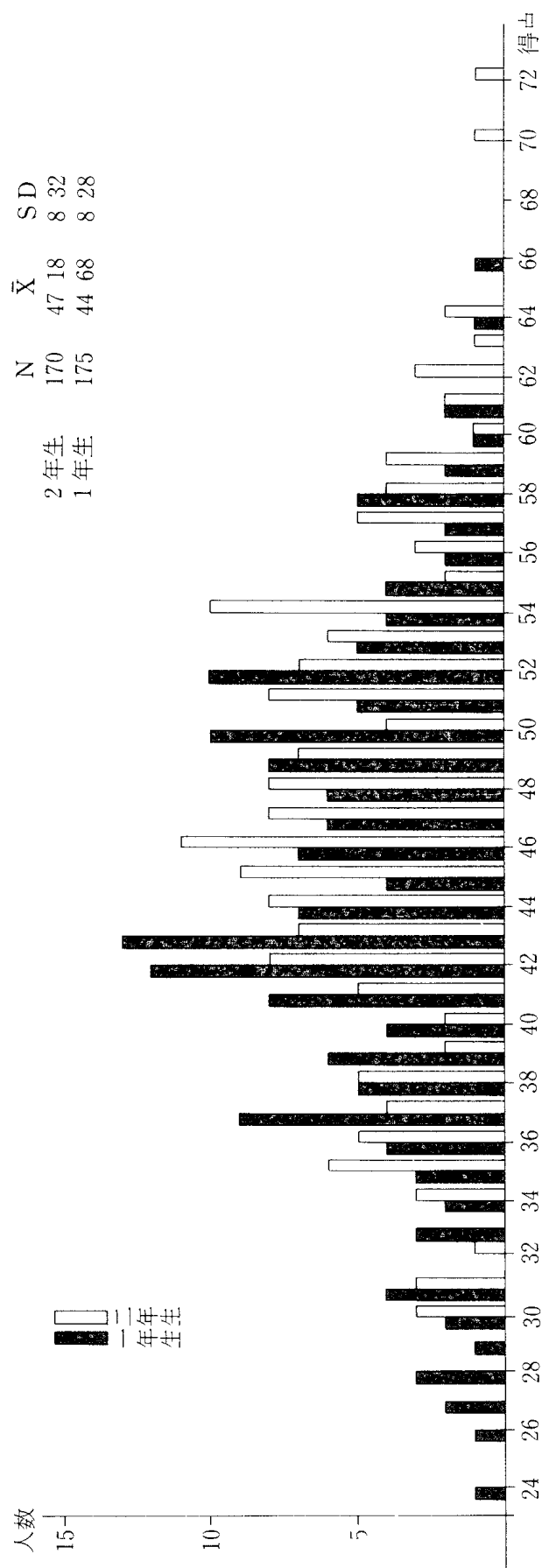


図3 問55の項目中15項目(項目3,9,10,11,13を除く)の得点を合計したさいの分布 (可能な得点の範囲0—75)

項目)は評定段階が逆になっている。短大生活の全体的な適応度とも呼び得る指標を得るべく、比較的適応という観点からは独立していると考えられる項目(項目3, 9, 11, 13)と同じことを重ねて問うていると思われる項目(項目10)を除く15項目の得点が個人毎に合計された。15項目は信頼度係数 $\alpha_5 = .928$ で一つの指標とみなし得ることが統計的に確認された。

この合計された得点を適応度を表す一つの指標と考えて分析を試みると(図3), 2年生の平均値が47.18, 1年生のそれが44.68で, 2年生の値が高く, 平均値の差の検定の結果( $t=2.78$ ,  $df=344$ )は, 0.1%水準で有意差が認められた。すなわち, 2年生が1年生にくらべて, より短大生活を適応してきていることを示している。項目別においても, 15項目すべてに2年生の方が値が高く, また, それ以外の項目についても, 項目11「勉強のことが気にかかる」と項目13「睡眠不足である」の2項目のみ1年生が高かったが, 短大生活に慣れていない時期にあつては当然とも考えられよう。

しかし, 志望大学(4年制か短大のどちらにいったか)に関する質問に対して約35%の学生が4年制と答えている(表3)事実を考えると, 彼女たちが志望とは異なる短大に入っていかなる適応を示しているのかなど, さらに細かい分析が今後必要である。

志望大学との関連のみならず, 入学の動機との関連, あるいは将来に関する展望と現在の短大生活の問題とのかかわりなど, 総合的に検討をする必要があるが, 就職に有利ということで敢えて本来希望していた4年制大学を捨てて短大を選び入学した学生も, 短大生活を続けるなかでその意義に気づいていくといった姿が浮かびあがってくるように思われる。ただ, これが果して適応なのかそれとも妥協なのかといった論議は別に生じてこよう。

## V. おわりに

前年度の報告で, 短大生の現在の生活および将来の展望に関しての知見が得られたが, 1年生と2年生の生活と意識の差が浮き彫りにされた。すなわち専門教育と就職を目前に控えた2年生の意識のずれがみられた。この点について調査を重ね, かつ同一対象者の1年次から2年次への変化を検討することによって, さらに問題点を明らかにする目的で調査が行われた。

その結果

- (1) 大体においては前年度の結果を支持する知見が得られた。すなわち, 2年生が就職を目の前にして現実的になるとともに, 一方で学生生活そのものを充実させようという傾向が今度の調査で一層はっきりしたよう

に思われる。

- (2) 同一対象者の1年次から2年次にかけての意識の変化も(1)の結果とほぼ同様であった。
- (3) 短大生活における適応は1年生から2年生にかけて進行する。適応に関してはさらに分析が必要である。

### 参考文献

- (1) 永田照子, 菅田圭次, 恵玲子共著, 「女子短大生のライフスタイルの研究 I—学生の生活及び将来に関する学生自身の展望について—」, 飯山論叢 Vol 2, No 1, 1985, 275-313
- (2) B S—エヴェリット著, 山内光哉監訳, 弓野憲一・菱谷晋介訳『質的データの分析—カイニ乗検定とその展開—』, 新曜社, 1980
- (3) 三宅一郎, 山本嘉一郎共著, 『SPSS 統計パッケージ』I 基礎編, 東洋経済新報社, 1976.
- (4) 三宅一郎, 山本嘉一郎共著, 『SPSS 統計パッケージ』II 解析編, 東洋経済新報社, 1976
- (5) Vroom, V H, 『Work and Motivation』, John Wiley & Sons, 1964
- (6) 昭和60年度秘書教育担当者研修会「パネルディスカッション」関係資料, 全国短期大学秘書教育協会, 1985.
- (7) 豊嶋秋彦, 清俊夫, 芳野晴男, 「大学生における適用過程の時代的変遷(1) 1年次前半の適応過程」, 『日本社会心理学会第26回大会研究発表論文集』, 1985, 50—51
- (8) 清俊夫, 豊嶋秋彦, 芳野晴男, 「大学生における適応過程の時代的変遷(2) 1年次後半の適応過程」, 『日本社会心理学会第26回大会研究発表論文集』, 1985, 52—53